

令和6年度 保育内容等の自己評価(結果)

はじめに

保育士による自己評価は、自らの保育実践を振り返り、良好な点や課題を明確にすることで、今後の保育に反映することを目的として行われるものである。自己評価を通じて日々の保育の意義を見直し、子どもへの理解を深めることにより、より質の高い保育の実現を目指すことができる。

本年度の自己評価は、保育内容に関する7つの分類18項目、計211の設問について実施した。評価対象者は、常勤保育士17名および非常勤保育士5名の計22名で、一部の項目については、日常の保育において直接的な関わりが薄い内容も含まれているが、すべての設問に対して全職員に回答を依頼した。

1 保育の理念・保育観

本項目では、「はい」と回答した職員が93.58%と非常に高く、当園の保育理念が広く職員に浸透している様子が読み取れる。ただし、わずかに「どちらともいえない」や「いいえ」の回答が存在しており、特に新任職員や経験年数の浅い職員に対しては、理念の言語化と実践への落とし込みが十分でないと考えられる。今後は、理念を日常の保育に具体的に活かすため、定例の研修や振り返りの場において、理念の意義や事例を職員間で共有し、理解の深化を図る必要がある。

2-1 保育計画・指導計画

本項目では、「はい」の回答が82.20%とやや低く、「どちらともいえない」が16.29%に達していることから、計画内容の明確性や保育現場への実践の浸透に差が見られる。保育計画は、単に文書として整えるものではなく、全職員がその意図と目的を理解し、保育に反映できるものでなければならない。今後は、指導計画の検討方法や共有の在り方を見直すとともに、計画の実効性を高めるためのモニタリング体制を整えることが課題である。

2-2 乳児保育、2-3 3歳未満児

保育「乳児保育」、「3歳未満児保育」の両項目においては、「はい」の回答が93.94%と高く、職員が丁寧かつ発達段階に応じた関わりを実践していることがうかがえる。しかし、「どちらともいえない」の回答も一定数存在しており、対応の仕方や保育内容について職員間の認識に差がある可能性がある。特に、個別性を踏まえた配慮や援助の在り方については、今後さらに具体的な指導法や視点を園内で共有し、保育の質の均一化を図る必要がある。

2-4-ア 基本的事項

本園における本項目の評価結果は、「はい」が93.94%と高い数値を示しており、多くの職員が日常的に子どもの体調変化や生活リズムを丁寧に見守り、家庭的な雰囲気の中でゆったり過ごせるように努めている実態がうかがえる。

しかしながら、「どちらともいえない」という回答も一部存在していることから、保護者や子どもに寄り添った保育が求められる。

2-4-イ 健康

本項目において、「はい」と回答した職員が84.47%に達しており、子どもの健康状態を日々丁寧に観察し、必要に応じて適切に対応している体制が概ね整っていることが明らかとなった。職員の多くが、登園時の体調確認や日中の体調変化への対応に意識を持って取り組んでいると考えられる。一方で、「どちらともいえない」という回答が13.64%存在しており、健康観察の記録や対応基準に関して明確なガイドラインが共有されていない、または理解に差があることも示唆される。今後は、健康管理における統一的な対応マニュアルの整備や、定期的な保健会議の実施などを通じて、すべての職員が同じ基準で対応できるようにする必要がある。

2-4-ウ 人間関係

人間関係の項目では、「はい」の回答が92.42%と高く、子どもと職員、または子ども同士の関係性が温かく丁寧に築かれていることがうかがえる。一方で、「どちらともいえない」の回答も7.58%見られ、特定の年齢や個別性への配慮に課題があることも示されている。今後は、対人関係に不安を抱える子どもへの対応について、職員間での実践共有を促進し、支援の質を高める必要がある。

2-4-エ 環境

本項目の「はい」の回答は79.55%と他項目よりやや低く、「どちらともいえない」と「いいえ」が合わせて20%以上を占めている。子どもが安心して過ごせる環境が概ね整ってはいるが、保育環境の構成や使い方に対する職員の理解にばらつきがあると考えられる。今後は、環境構成の意図を明確にし、全職員で定期的に見直しを行う体制が求められる。

2-4-オ 言葉

言葉に関する項目では、「はい」の回答が86.78%と比較的高い一方で、「どちらともいえない」が12.81%に達している。子どもの言語発達を支援する上で、保育士の関わり方や促し方に差があることが背景にあると考えられる。今後は、言語発達に応じた関わり方を学び合う研修の実施や、保育日誌を通じた振り返りを重視していく必要がある。

2-4-力 表現

表現に関する項目では、「はい」が88.64%と比較的高いが、「どちらともいえない」が17.61%と高めである。これは、表現活動に対する支援の在り方について職員の理解や自信に差があることを示している。今後は、子どもの表現を尊重しながら、その創造性をどう支えるかについての共通理解を深めるため、園内外の研修や事例研究を積極的に導入する必要がある。

2-5 特別な配慮や支援保育を必要とする子ども(障害児)の保育

当該項目では、「はい」の回答が77.27%と他項目と比較して相対的に低く、「どちらともいえない」が18.94%に達している。該当する園児が比較的少数であり、かつ支援の必要性が軽度であることも背景にあると考えられるが、障害児保育に対する職員の不安や支援技術の習得不足が一定の割合で存在していることを示している。今後は、すべての職員が共通の支援観を持てるよう、園内研修の充実や外部専門機関との連携強化、ケース検討の定期的実施が求められる。

2-6 行事

行事に関しては、「はい」の回答が87.73%と比較的高い評価を得ているものの、「どちらともいえない」が11.36%と一定数存在している。これは、行事の目的や実施意義が全職員に明確に共有されていない可能性を示している。日常業務の多忙さから、行事準備や運営に対する負担感も指摘されることがあり、今後は行事の在り方を見直し、子ども中心の視点を軸に、保護者との協力体制を整えたうえで、職員全体が納得感と達成感を得られる行事運営の工夫が求められる。

2-7 延長保育

本項目では、「はい」の回答が93.18%と高水準にあり、延長保育に取り組む職員の実践が概ね良好に評価されていることがうかがえる。しかし、延長保育に直接関与していない非常勤職員から「どちらともいえない」とする回答も見られ、延長保育の目的や意義、具体的な内容について十分な共有がなされていないことが課題である。今後は、延長保育の役割を園全体で再確認し、非担当職員も含めた情報共有と理解促進を図ることが求められる。

3 保健活動・安全管理

保健活動および安全管理に関する項目では、「はい」の回答が89.29%と高評価であり、日常的な健康・衛生管理はおおむね適切に実施されているといえる。しかし、「どちらともいえない」が10%以上存在しており、特に緊急時対応や災害対策など、非常時における体制や意識に不安があることが浮かび上がった。今後は、避難訓練の実効性を高めるとともに、非常時対応マニュアルの整備と定期的な周知・訓練を行い、安全管理に対する全職員の意識向上を図る必要がある。

4 保護者・地域・関係機関との連携

本項目では、「はい」の回答が79.14%とやや低めであり、「どちらともいえない」が17.11%と高い傾向にあった。これは、保護者・地域・関係機関との関係づくりにおいて、職員ごとの意識や関与の度合いに差があることを示している。今後は、園全体としての連携方針を明確にし、地域住民や関係機関と連携する意義を職員が実感できるよう、交流の機会や具体的な連携モデルの提示が必要である。

5 地域の子育て支援

地域の子育て支援に関する項目では、「はい」の回答が68.83%と全項目中最も低く、「どちらともいえない」が27.92%と高い割合を占めている。この結果から、地域支援の必要性やその方法について職員の理解が進んでいないことがうかがえる。子育て支援は園の社会的役割の一環であり、今後は単発のイベントにとどまらず、継続的・包括的な支援体制の構築と、その目的や手法に対する全職員の理解促進が不可欠である。

6 職務・役割分担

本項目においては、「はい」の回答が92.56%と高く、園内における職務分担が基本的に明確化されていることがうかがえる。しかし、「どちらともいえない」の回答も一定数見られ、一部では業務の偏在や重複、役割の曖昧さが課題として存在している。今後は、業務内容や分担の見直しを柔軟に行い、職員の実態や意見を反映させながら役割の明確化と平準化を進める必要がある。

7 保育士の資質向上

本項目における「はい」の回答は74.24%と全体的にやや低く、「どちらともいえない」、「いいえ」が20%に達している。これは、職員が自己研鑽の機会に対して不十分さを感じていることや、園としての育成体制に課題があることを示している。今後は、外部研修の積極的な活用と園内研修の体系化に加え、学びの振り返りや評価制度の導入により、職員一人ひとりの資質向上を着実に支援する仕組みの整備が求められる。

園長総評

令和6年度の運営評価においては、全体として「はい」の回答が8割を超える項目が多く見られ、当園における日々の保育実践が一定の質と安定性をもって行われていることが確認された。特に「保育の理念・保育観」や「乳児保育」「延長保育」など、子どもたちに直接関わる基本的な保育活動に対して高い自己評価が得られたことは、保育者一人ひとりの子どもを大切にする姿勢と責任感のあらわれであると受け止めている。

一方で、「保育計画・指導計画」や「障害児保育」「地域の子育て支援」など、専門性や対外的視点が求められる分野においては、「どちらともいえない」との回答が多く、理解

や実践のばらつきが見られた。これは、職員個々の問題にとどまらず、園全体としての体制整備の遅れや、支援の仕組みの不十分さが背景にあると考えられる。特に「地域の子育て支援」については、全項目の中で最も評価が低く、園として地域にどう貢献していくかという意識や行動が、職員全体で十分に共有されていない現状が明らかとなった。これらの課題を踏まえ、地域支援体制の強化に向けた取り組みを早期に実現できるよう、園全体で意識改革と具体的な体制づくりを進めていく必要がある。

また、「保育士の資質向上」の項目においては、学びの機会の不十分さや自己研鑽への支援体制の不足が影響しており、今後の保育の質を支えるうえでも重要な課題であると捉えている。保育は「人」が担う営みである以上、その「人」を育てることは園運営の中核をなす責務である。園として、保育士一人ひとりが自らの課題と向き合い、目標を持って成長できるような環境づくりが求められる。

さらに、「行事」や「保護者・地域・関係機関との連携」など、これまで「当然」とされてきた取り組みにおいても、その目的や意義が十分に共有されていない傾向が見られた。これらの活動が形式化していないか、保育の本質との接続が失われていないかを振り返りながら、職員全体で納得できる運営方針を構築していくことが望ましいと思われる。

本評価結果を受けて、今後の園運営においては、理念と実践の接続を常に意識し、対話を通じて共通理解を深めること、そして外部との連携や地域支援の視点を持ちながら保育の幅を広げていくことが求められている。様々な課題が浮き彫りになってきているので、本評価を契機として、全職員が一体となり、より豊かな保育環境の創造に向けて継続的に取り組んでいきたいと考えている。

令和6年度 保育内容等の自己評価

桜川保育園

1 保育の理念・保育観

番 号	内 容
1-1	あなたは全ての子どもについて、一人ひとりの存在と人権を尊重していますか。
1-2	児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障することが保育園の必要な使命だと理解していますか。
1-3	あなたは、日頃から「保育所保育指針」をよく読み、その理念を理解した上で、保育内容や保育方法を考えるときのガイドラインとしていますか。
1-4	あなたの保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識して保育していますか。
1-5	あなたは、保育所保育は養護と教育が一体となっていて行われている、ということを意識して保育していますか。
1-6	今日の保育園には、入園している子どもの保育だけでなく、広く地域の子育て支援をする社会的役割があることを認識していますか。
1-7	あなたは、子どもに文化や生活習慣、考え方が多様であることを知らせ、それらを尊重する心を育てるよう努めていますか。
1-8	子どもの性差や個人差にも留意しながら、固定的な性別役割分業意識を植え付けることのないように配慮していますか。
1-9	あなたは、日頃から、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなど精神的苦痛を与えることがないようにしていますか。
1-10	あなたは、個人情報の保護に配慮し、子どもやその家庭についての秘密を正当な理由なく漏らすことがないようにしていますか。
1-11	あなたは、「子ども・子育て応援プラン」に、若者の就労支援や男性の子育て参加等が盛り込まれていることを知っていますか。
1-12	様々な特徴を持つ子も持たない子も、一人ひとりのありのままの姿を受けとめ、すべての子どもが健やかに成長することを願って保育をしていますか。
1-13	育児の考え方について保護者とあなたが食い違っているとき、先ず相手の気持ちを受けとめ、話し合いその保護者の立場や考え方を理解するよう努めていますか。
1-14	子どもの家庭状況は多様だという考えの上で、今、その子に何が必要かを見極め、それぞれにとって適切な援助をしていますか。
1-15	子どもが熱中しているときは、その時の保育の内容や流れに変更が生じて、危険のない限りその活動を見守るなどの柔軟性を持っていますか。
1-16	あなたは、子どもと一緒に思い切り体を動かして遊ぶことの重要性を理解し、楽しんでいますか。
1-17	あなたは、一人ひとりの子どもに目が行き届いていたか振り返り、これからの保育の課題を見つけることができますか。
合計 17 項目	

2 保育の内容

(1)保育計画・指導計画(正職・嘱託)

番 号	内 容
2-1	あなたは、指導計画を作成するとき、「保育所保育指針」を読み参考にしていますか。
2-2	あなたは、保育園の方針である保育計画をもとにして、指導計画を作成していますか。
2-3	保育には指導計画(年・月・週・日案など)の作成という、あらかじめ見通しを持った計画性が必要だと思いますか。
2-4	あなたの月・週案などには、教育的側面(五領域の視点)だけでなく、養護的側面(基礎的事項)もしっかりと盛り込まれていますか。
2-5	あなたは、指導計画を作成するときに、地域の実態や保護者の意向・希望などを考慮していますか。
2-6	子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月・週・日案などを作成していますか。
2-7	あなたの月・週・日案などには、子どもの意欲を誘う環境構成が十分工夫されていますか。
2-8	複数担任の場合、よく話し合ってお互いの考えを十分に理解した上で、月・週・日案などを立てていますか。
2-9	園の保育理念や方針・目標、あなたの作成した年案、月案、週案、日案などのねらいや内容を、保護者に分かるように説明できますか。
2-10	あなたは、季節感や日本の伝統的な行事などを指導計画のなかに取り入れるようにしていますか。
2-11	月・週・日案などが、実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたかという視点から自分の保育を評価・反省していますか。
2-12	月1回以上、自分自身の指導計画の点検・評価を行い、その結果を次の指導計画に生かしていますか。
合計 12 項目	

(2)乳児保育

番 号	内 容
2-13	あなたは、一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かに把握するとともに、保護者の状況などの背景も理解していますか。
2-14	哺乳瓶の消毒、調乳、沐浴の仕方など基本的な事柄や、子ども一人ひとりの健康状態などを、随時職員相互で確認し合っていますか。
2-15	授乳について、その子が欲しがる時にやさしく抱いて微笑みかけ、ゆったりと飲ませていますか。
2-16	離乳食は、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの育ち具合やその日の体調に合うように工夫していますか。
2-17	その子にとって初めての食品を食べさせたときは、皮膚や便性などに異常がないか観察していますか。
2-18	おむつ交換は「きもちいいね」などとやさしく声をかけたり、マッサージしたりして、排便の回数、便性を把握して臀部を清拭していますか。
2-19	赤ちゃんの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージとして受け止め、ほほえみ、要求に応じる言葉をやさしく返していますか。
2-20	子どもを外気に触れさせたり、適度な戸外遊びをさせたりして、健康増進をはかるようにしていますか。

2-21	喃語には、ゆったりと応えたり、やさしく話しかけたりして、発語の意欲を育んでいますか。
2-22	絵本を見せながら、その子の指さすものに答えたり、やさしい言葉を添えたりして、あなた自らもそのやり取りを楽しむことができますか。
2-23	あなたがどんな状態にあるときにでも、赤ちゃんの笑顔やしぐさをかわいいと感じることができますか。
2-24	あなたは、自分の服装の色合い、頭髮・爪などの清潔や、室内の清掃にも配慮していますか。
2-25	寝返りができない乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにするとともに、睡眠中の姿勢、かけぶとん、呼吸等の確認をしていますか。
2-26	一人ひとりの生活リズムや欲求、その日の体調等を把握した上で、睡眠の時間を調節したりする柔軟性を持ち合わせていますか。
2-27	連絡帳を活用するなどして、保育園以外での子どもの様子も把握するように努めていますか。
合計 15 項目	

(3)3歳未満児保育(1・2歳児保育)

番 号	内 容
2-28	大勢の子どもを保育するときでも、あなたを独占したがるその子の気持ちも十分に満たすなど子どもの背景に配慮しながら、個別対応の努力や工夫ができていますか。
2-29	「できない、やって！」と甘えてくるときは、その都度、その子の気持ちを受け止め、一人ひとりの発達に応じて要求を満たす援助をしていますか。
2-30	あなたは子どもの「これなーに?」、「どうして?」などの繰り返しの質問に、忙しいときでもできるだけその都度応えようとしていますか。
2-31	探索活動が十分行えるよう、安全にはよく気を配りつつ、環境を整えたうえで、子どもが要求する行動を容認できますか。
2-32	着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けやことばかけをしながら、時間を要しても自分からしようとする気持ちを大切にしていますか。
2-33	食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気ですぐに食事ができることを第一に考えていますか。
2-34	子どもがおもちゃの取り扱いなどでぶつかり合うとき、危険のないよう配慮しつつ、子どもの発達の程度や心の動きを考えながら、しばらく見守ることができますか。
2-35	「おや、何だろう?」、「これで遊ぼう」と好奇心や興味を引き起こす材料や素材、場を用意する心配りをしていますか。
2-36	散歩の時、保育者も一緒に楽しみながら、花や葉、虫や動物などを見つけたりして、子どもとともに自然物や動物への興味・関心を持つことを大切にしていますか。
2-37	子どもと会話をするときに、その子の目線に合わせて話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感していますか。
2-38	あなたは、自分の表情に配慮しながら、子どもにわかるように、ゆっくり、はっきり、おだやかに、具体的な短い言葉で語りかけていますか。
2-39	子どもに「絵本を読んで」、「遊んで」と言われた時に、場面に応じて「待って」と言った場合にも、その理由を伝え、その子の気持ちに応えていますか。
2-40	歌を歌ったり、リズムにのって体を動かすとき、あなたは歌や動きを子どもに合わせ、一緒に楽しむことができますか。
2-41	わがままで「いやだ」という子どもの内面に配慮しながら、その子の気持ちを肯定的な方向に向けるようにしていますか。

2-42	自分の思いどおりにならず、おこったり泣いたりする子どもに対して、ていねいに話してきかせたり、気持ちを切り替える時間をとり、ゆったりと待つことができますか。
合計 15 項目	

(4)3歳以上児保育

ア 基礎的事項

番 号	内 容
2-43	子どもが緊張したり、不安を感じたりするときにはあたたかく受け止め、母親のようにやさしく接するなど、家庭的な雰囲気づくりに心がけていますか。
2-44	あなたは、子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるように、いつも心を開いて、信頼関係をつくる努力をしていますか。
2-45	子ども一人ひとりの背景や保護者の状況を理解し、受けとめて、安心して甘えられるように、その子の気持ちに寄り添い、支えていますか。
2-46	あなたは、今まで大事に飼っていた小鳥などの小動物が死んだとき、子どもと悲しみを共有し、生命の大切さを伝えていますか。
2-47	子どもが自己表現できるように、その時どきの要求や気持ちを読み取り、どの子も自分が愛されていると実感できるように接していますか。
2-48	子ども一人ひとりの必要に応じて、心も体もゆったりとくつろげるための空間と時間をつくり出す努力をしていますか。
2-49	少しでもふだんと違う具合の悪そうな子どもに気づいたら、自分から体の不調を訴えられるように、やさしく問いかけていますか。
2-50	日常生活でのしぐさをよく観察して、行動や身体の異常などの早期発見に努めていますか。
2-51	季節感を味わえる環境を整えたり、心地よい音楽を流すなど、なごやかなにくつろいで過ごせる室内の環境づくりを心がけていますか。
合計 9 項目	

イ 健康

番 号	内 容
2-52	あなたは、「食育」の考え方を大切に、食事を「楽しく、おいしく」味わえるように、テーブルの配置や飾りつけなども工夫していますか。
2-53	あなたは、子どもが、配膳の手伝いなど、食事に興味をもてるような機会を作れるようにしていますか。
2-54	「食育」の活動の一環として、調理をしているところを子どもに見せたり、栄養士や調理員の話聞かせたりして、子どもが食材や食事に関心を持つようにしていますか。
2-55	給食のメニューやレシピ、食に関する情報を保護者に知らせるなど、発育期にある子どもの食事の大切さに関心を持ってもらう努力をしていますか。
2-56	天気の具合や活動の内容、程度に応じて、衣服の着脱、調整を子ども自らが考えられるように言葉をかけていますか。
2-57	トイレに行くことをせかさせたり、強要したりせずに、一人ひとりの排泄の欲求に合わせるようにしていますか。
2-58	おもらしをしたり、排泄の後始末がうまくいなくても、さりげなく対応し、自分でできるように個別の指導がなされていますか。

2-59	子どもたちがよい快い疲労感を感じて昼寝に入れるよう、十分な遊びの場や時間を設けるようにしていますか。
2-60	昼寝の時間以外でも、一人ひとりの状況に応じて、眠らせたり、身体を休ませるようにしていますか。
2-61	清潔でいることは気持ちよいことと子どもが知るために、手洗い場、トイレなどをいつもきれいにしていますか。
2-62	子どもが、いろいろな楽しさを味わうため、散歩など戸外に出かける機会を積極的に多く取り入れていますか。
2-63	子どもが外で十分に体を動かして遊びに興ずることができるように、日頃から園庭や固定遊具の整備をしていますか。
合計 12 項目	

ウ 人間関係

番 号	内 容
2-64	「保育園の先生が好きだ」といった幸福感を味わえるために、子どもが充実できる活動や場を日頃から用意していますか。
2-65	あなたは、子どもが嬉しい時や悲しい時、また困ったり戸惑ったりしたときに、それを伝えたい存在となっていますか。
2-66	自己を表現する力や相手の言うことをきく姿勢がもてるよう、あなたはそれぞれの子どもの立場や気持ちをくみ取った仲立ちをしていますか。
2-67	あなたは、その子の発達の段階を理解して働きかけながら、子どもがきまりや約束の大切さに気づき、それを守ろうとする態度を養うように努めていますか。
2-68	遊びの中で子どもたちが自ら試行錯誤しながら作っていくルールを、大切に見守ることができますか。
2-69	子どもたちのけんかやぶつかり合いを、友だちを知る機会や、社会性が育つ過程として受け止め、その育ちを見守ることができますか。
2-70	一人ひとりの興味や発達に応じた取り組みをして、子どもたちが一緒に関わり合う喜びを味わう場や機会を用意できていますか。
2-71	タテ割り保育などのとき、発達や生活経験の違いに着目して、それぞれの子どもがもっている課題を見いだすことができますか。
2-72	高齢者や実習生、中・高生等を受け入れるときに、子どもたちがとまどいながらも楽しめるように援助し、人間関係を学ぶ機会としていますか。
合計 9 項目	

エ 環境

番 号	内 容
2-73	今日咲いた花、飛んできた鳥や虫など、それぞれの季節ならではの子どもの感動が、あなた自身のものとして受け止められていますか。
2-74	庭や散歩で拾ってきた木の葉、木の実など、いろいろなものを比べたり調べたりして、自然の不思議さや面白さを子どもたちと共有するとともに、物の性質や数、量などに対する興味を育てていますか。
2-75	春には花が咲き、冬には葉が落ちるなど自然の営みについての子どもの疑問に関わりやすく答えることができますか。
2-76	子どもの質問や疑問に、すべて答えたり、すぐに回答を出すのではなく、実物を見せたり図鑑などで調べたりする誘いかけもしていますか。

2-77	朝顔の栽培、オタマジャクシの飼育など身近な自然物からでも、動植物の成長の過程を子どもとともに楽しんでいますか。
2-78	あなたは、最近の社会の出来事に目を向け、理解したうえで、子どもの興味、関心に沿うかたちでわかりやすく説明することができますか。
2-79	地域の公共施設やそこで働く人々と子どもの生活とのかかわりについて、正しく伝えていますか。
2-80	子どもが自由に取り出して遊べるよう、遊具、用具などの構成を整え、その量や補充について工夫していますか。
合計 8 項目	

オ 言葉

番 号	内 容
2-81	言葉は、コミュニケーションや思考、行動のために不可欠なものであることを認識し、幼児期に言葉を豊かに身に付けられるように努力していますか。
2-82	子どもたちが、生活や遊びを通して、生きた言葉を多く自分のものとできるように工夫していますか。
2-83	日頃あなたは、声の大きさに気をつけ、わかりやすい、子どもへの心を込めた、あたたかな言葉づかいでゆっくり話すようにしていますか。
2-84	子どもが登園したとき、いつもさわやかに挨拶をし、その時々に必要な言葉をかけるようにしていますか。
2-85	絵本や童話を読み聞かせるときは、文章の美しさや言葉のリズムの面白さに気を配り、その物語性や、伝統のすばらしさを伝えるようにしていますか。
2-86	紙芝居や絵本の読み聞かせで、子どもが感動したり想像力を膨らませるように、あなた自身もその内容を楽しんでいますか。
2-87	子どもが話しかけてきたとき、その内容や結論が分かっているにもかかわらず、ゆっくり聞いて、会話したい気持ちを満ち、言葉で伝えあう場を大切にしていますか。
2-88	あなたは、子どもの目を優しく見つめながら、気持ちを合わせ、その子の言葉だけでなく、目の動き、顔の表情、体全体のしぐさにも注意を払っていますか。
2-89	子どもと一緒に美しい花を目にしたときなど、あなたは「きれいな」だけでなく、もっと多様な言葉でその感動を表現していますか。
2-90	あなたは「早く～しなさい」「だめ」「いけません」などの指示、命令する言葉や禁止語をできるだけ使わないようにしていますか。
2-91	子どもに言い聞かせるときには、問いつめたり、押し付けたりせずに、子ども自ら考えるきっかけになるようなわかりやすい言葉づかいをしていますか。
合計 11 項目	

カ 表現

番 号	内 容
2-92	見たこと、感じたものに対して、言葉、絵、造形、からだ、音などその子が最も好きな、得意とする方法で表すことを大事にしていますか。
2-93	あなたは、その子が感じたままを作品や動きなどで表現していることをくみ取ることができますか。
2-94	あなたは、絵などの作品に、その子の喜びや悲しみ、驚きなどの感動を読み取ろうとしていますか。

2-95	活動の場面に応じて、リズムやボリュームなどに配慮して子どもの耳に快く響く音を提供していますか。
2-96	鈴、カスタネットなどのリズム楽器を活用し、子どもが音色やリズムの楽しさを満喫できるようにしていますか。
2-97	友達との合奏が、一人で楽器を鳴らすこととは違った楽しさもあることを体験できるよう、あなたは盛り上げる役を果たしていますか。
2-98	子どもが自分の作品を大切にされていると感じられるように、展示のしかたなどを工夫していますか。
2-99	子どもが、いつでもすぐに使えるように、クレヨン、絵の具、粘土、紙などを手近に用意していますか。
2-100	ハサミなど危険を伴う道具には、正しい使い方や後片づけのしかたを日常的に指導していますか。
2-101	子どもたちの遊びに、身体を使った様々な表現遊びを多く取り入れていますか。
合計 10 項目	

(5)特別な配慮や支援を必要とする子ども(障がい児)の保育

番 号	内 容
2-102	保育園は、障害を持つ子どもそうでない子ども「共生」「共有」の観点から、当たり前のこととして保育するという考え方にあなたは共感しますか。
2-103	障害児が入園した時、安全管理や個別対応などその子を受け入れるための保育を、積極的に進めようと考えていますか。
2-104	障害児について素朴な疑問をなぜかしてくる子に対して、必要に応じて障害の性質や行動の困難さなどについて、丁寧に説明していますか。
2-105	あなたは、障害児もそうでない子ども互いのよさを感じとり、楽しく交流できる雰囲気づくりに励んでいますか。
2-106	あなたは、障害児の世話をし過ぎる子どもや、逆に無関心な子どもの存在に気づき、それへの配慮を心がけていますか。
2-107	あなたは園でのケース会議で積極的に議論することにより、園内の障害児への理解を深めるように努力していますか。
2-108	あなたは、障害児により適切な保育をするために、様々な専門機関等と連携をしていますか。
2-109	障害児の保護者が、様々な苦しみや悩みを抱えてきていることを、触れ合うなかで感じることはありませんか。
2-110	日常的に障害児に保護者との話し合いの場等を設けて、不安や焦り等悩みを抱えている保護者の気持ちの援助に心がけていますか。
2-111	就学に向けて相談する障害児の保護者に対して、保護者が自分で方向を決めていけるように相談に応じたり、情報提供をしたりしていますか。
2-112	障害児を受け入れる園の方針を、健常児の保護者に理解してもらえるように努力していますか。
2-113	障害児保育をより豊かなものにするために、子どもたちにふさわしい環境・物的環境(遊具等)を整えるなどの努力をしていますか。
合計 12 項目	

(5)行事

番 号	内 容
2-114	あなたは、園が従来から続けてきた「行事」について、その意味について十分に考えてから、保育の中に組み込んでいますか。
2-115	「行事」を保育に取り入れるときには、それが子どもの健やかな育ちにつながる意味をもつことを意識していますか。
2-116	みんなで楽しむとともに、一人ひとりが十分に自分の力を発揮できるような「行事」となっていますか。
2-117	あなたは、子ども達にとってその季節や時期にしか味わえない有意義な体験となるよう「行事」に工夫を凝らしていますか。
2-118	子ども達が期待を持って「行事」に参加できるよう、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育場面を用意していますか。
2-119	「行事」に参加することを嫌がる子どもには、その気持ちをくみ取って、行事の中でその子が活動できる場面を用意していますか。
2-120	保護者が参観する「行事」のときには、保護者の評価にあまりとらわれず、日常の子どものありのままを見てもらう気持ちのゆとりをもっていますか。
2-121	あなたは、「行事」が、子どもの生活や遊びから発展していくように、日常の保育の積み重ねの結果となるよう心がけていますか。
2-122	保護者や地域住民にも参加してもらうような「行事」については、園だよりや広報紙等で事前にその趣旨を説明し、理解や協力を要請していますか。
2-123	子どもも保護者も期待感を持つ「行事」には、あなた自らも喜んで、余裕をもって参加できていますか。
合計 10 項目	

(6)延長保育・一時保育

番 号	内 容
2-124	長時間にわたる保育を受ける子どもには、特に畳やカーペットで寝転ぶことができるようにするなど、家庭的雰囲気配慮していますか。
2-125	次々にお迎えが来るなかで、「ママ来ないね」のつぶやきに対して、その子の気持ちを受け止めて、安定した気持ちで待つことができるような適切な対応をしていますか。
2-126	あなたは延長保育で、一人ひとりが好きな遊びができるように配慮していますか。
2-127	延長保育の子どもには、担任でなくても、園での様子が保護者に十分伝わるよう、連絡ノートやおたよりを活用していますか。
2-128	延長保育の時間帯には、とりわけ異年齢の子ども同士で遊べるような工夫をしていますか。
2-129	一時保育の申し出には、保護者の事情等の子どもの背景を十分に考慮しつつ、その子を受け入れることができますか。
2-130	慣れないところに一時的に預けられる、子どもの不安な気持ちを考えて、予定しているにちあんを変更するなど柔軟な姿勢を持っていますか。
2-131	一時保育で受け入れた子どもが、集団の中で遊べるよう、遊びを工夫したり、中立をしたりしていますか。
2-132	一時保育で受け入れる子どもが安定できるよう、遊びの校内や遊具、教材などの準備に配慮していますか。
2-133	一時保育や延長保育の子どもは保護者に、緊急の連絡が取れるような手立てを確認していますか。

合計 10 項目

3 保健活動・安全管理

番 号	内 容
3-1	身長・体重等の測定や医師の診断から、発育・発達の状態を把握して、それを保護者や他の職員に伝えるとともに、日常の保育に生かしていますか。
3-2	その子の体調の些細な変化や異常に速やかに対応するために、日常的な体調や機嫌の状態をつかむよう努めていますか。
3-3	あなたは、子どもに何らかの異常が見つかった場合、より適切な処置ができるように、嘱託医の指導を受けるなど日頃から学習をしていますか。
3-4	あなたは、健康観察で子どもの健康状態をある程度判断することができますか。
3-5	子ども一人ひとりの体調をしっかり把握し、食事の量や内容を変えるなどの配慮をしていますか。
3-6	あなたは、睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を観察するなど、SIDS等への予防に努めていますか。
3-7	アトピー性皮膚炎・食物アレルギー等の子どもに対して、医師の指導のもとに適切な対応をしていますか。
3-8	あなたは、日頃から虐待の早期発見を心がけ、虐待が疑われる場合には、園長に伝えるなどの防止策を考えていますか。
3-9	備品棚やピアノなどの転倒防止、その他事故が起こらないように、あなたの保育室内外の安全点検を、毎日怠らないように努めていますか。
3-10	園庭にガラスの破片など危険なものがないか調べたり、砂場を掘り起こして整えるなど、安全な環境づくりの努力をしていますか。
3-11	地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練等に参加し、非常災害時にあなたが何をしなければならぬか理解していますか。
3-12	登降園時の事故防止について、保護者が何を注意すればよいか、あなた自身が説明することができますか。
3-13	そのまま見過ごしたら明らかに危険な行動には、理由を説明して「いけません」、「やめなさい」などの言葉ではっきりと制止していますか。
3-14	不審者が侵入した場合に備えて、子どもの安全を確保するための対応策を日頃から心がけ、職員間で話し合っていますか。
合計 14 項目	

4 保護者・地域社会・関係機関との連携

番 号	内 容
4-1	園での様子を伝え家庭での様子を聞くなかで、子どもの育ちを保護者とともに、考え、喜び合うことができますか。
4-2	その日の子どもの健康状態や興味を持った遊びなど、必要に応じてお迎え時に保護者に丁寧に伝えるように努めていますか。
4-3	保護者から突然、お迎えが遅くなると連絡があった時にも、快く対応するよう努めていますか。
4-4	保護者が育児の悩みや心配事を話してみたくなり、一緒に考えてくれる存在であると思えるよう、あなたはこちらからすすんで触れ合うことを心がけていますか。

4-5	たとえあなたの保育に批判的な保護者であっても、対立せずに受容し、意見や要求を聞こうとする姿勢が持てますか。
4-6	あなたは、保育に関する保護者の考えや提案を積極的に聞き、保育の流れの中で適切と思うものについては、園長等と話し合ったうえで受け入れるよう努めていますか。
4-7	保育園が、保育参観だけでなく時には保護者に保育参加(保育に直接加わる)をしてもらう方針を決めた場合、協力できますか。
4-8	あなたは、連絡帳を、保護者がその内容をよく理解でき、楽しみにするような書き方をしていますか。
4-9	保護者同士が相談相手になれるよう、お互いをよく知り合う機会を多く設ける努力をしていますか。
4-10	地域の人たちによるボランティア活動などをどのように保育に組み入れたらよいか職員間で話し合うとともに、あなた自身もきちんとした見通しを持っていますか。
4-11	老人会、町内会など地域組織と連携するとき、保育士としてどういう役割を担うべきか、考えたことがありますか。
4-12	放課後遊びに来る学童や卒園児にも、園の子どもと一緒に仲間に入って楽しく遊べるような配慮をしていますか。
4-13	あなたは、保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、めんどうがらずに指導することができますか。
4-14	散歩や行事などで、子どもたちが地域の人々と触れ合う機会を持つようにするとともに、気持ちよくあいさつをかわしていますか。
4-15	地元の公共機関を利用するなど、地域の人々にかわいがられて、子ども達が豊富な社会体験を得られるようにしていますか。
4-16	公園などの公共の場を使用した後は、あなたは子どもたちと一緒に清掃するなど、気を配っていますか。
4-17	あなたは言葉が通じない外国人に、尻込みしないで身ぶり手ぶりやIT機器を利用して対応できますか。
合計 17 項目	

5 地域の子育て支援

番 号	内 容
5-1	あなたは、日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを自覚していますか。
5-2	あなたは、保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかわりたいたいと考えていますか。
5-3	あなたは、相談の基本原則(受容・相互信頼関係・個別性・自己決定・秘密保持)について理解し、子育て相談の実践に生かしたいと考えていますか。
5-4	あなたは、本来業務の保育に支障がない限り、電話相談などの子育て支援を行いたいと思いますか。
5-5	あなたは、子育て相談を実施する際に連携すべき機関等(保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等)の機能についてよく知っていますか。
5-6	あなたは、子育てサークル・子育てボランティアの育成・支援に関心があり、勤務園が実施するときには、協力するつもりですか。
5-7	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解していますか。
合計 7 項目	

6 保育園の職務・役割分担

番 号	内 容
6-1	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、あなたは質問をしたり意見を言ったりできますか。
6-2	園長や主任などと意見が合わないとき、十分に話し合ったうえで、上司の指示に従うことができますか。
6-3	登園を嫌がるが続くなど、問題を感じたとき、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策のしかたを相談していますか。
6-4	あなたは、職員会議で必要と思う質問や意見をはっきり発言することができますか。
6-5	職員会議等で自分の意見や考え方と違う結論が出た時も、それに従って気持ちよく協力し、実行できますか。
6-6	栄養士など保育士以外の職種の人たちが保育にかかわるとき、その人たちへの気配りや協力関係に配慮するとともに、保育士としてのあなたの役割がなんであるか理解していますか。
6-7	あなたは、保育士として、他の職種の職員やパートの人たちにどんな役割を果たしてほしいか、具体的な期待をもっていますか。
6-8	あなたは、欠勤した日の出来事や連絡・注意事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか。
6-9	あなたは、自分のクラスの教材や備品を、責任をもって毎日点検・管理していますか。
6-10	あなたは、たとえ自分のクラスのものでなくても、教材・教具などの管理が不備であれば、自らすすんで整えることができますか。
6-11	あなたの本来の業務以外に保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって引き受けていますか。
合計 11 項目	

7 保育士としての資質向上(研修・研究活動)

番 号	内 容
7-1	あなたは、保育士としての責務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努めていますか。
7-2	あなたは、自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけることができますか。
7-3	自分の保育に対する同僚や上司からの批評や意見を、感情的にならず謙虚に聞き、時には反省することができますか。
7-4	保育をする中で生じた疑問や悩みを、同僚や上司にわかるように説明することができますか。
7-5	あなたは、その日の子ども一人ひとりの活動や姿を、しっかり記録に留めることができますか。
7-6	あなたは、どのような子どもについても、一人ひとりの課題をみつけ、ケーススタディーをすることができますか。
7-7	あなたは、保育の悩みや疑問を解決するために、研究・専門書を見つけて、そこから学ぶことができますか。
7-8	あなたは、他のクラスの保育について、疑問や感想・意見を、お互いの向上のために、言葉に配慮しながら素直に述べるすることができますか。

7-9	あなたは研修で得た内容・成果は、園の職員にわかるように丁寧に説明し、意見交換をするために役立 てていますか。
7-10	あなたは、積極的に研究グループやサークルに参加して独自に勉強していますか。
7-11	あなたは、研修会の機会があれば、自費でも参加したいと思いますか。
7-12	あなたの保育実践について、園長はじめ他の職員が把握できる保育日誌などの記録書けていますか。
合計 12 項目	
合計	